

わたしたちはいかに「共に」生きることができるのか？ 対話を通して考える

東京迂回路研究 フォーラム「対話は可能か？」開催決定のお知らせ

<2015年9月4日（金）～6日（日）>

障害、ケア、労働、住処、ジェンダーやセクシュアリティ、国籍——人々は日々、複層的な境界線を引き、引かれ、暮らしています。境界線は、ときに人を守りますが、孤立や分断、生きづらさを生み出すこともあります。いかに「共に」あることができるのか。そこにはどのような「対話」が必要となるのか。

このたび、介護士、詩人、研究者、写真家、美術家、プロジェクトディレクター、“おばちゃん”らによるトークセッションや対談、ライブなどを通じ、いまこの社会にあるわたしたちが、共に生きるということを感じ、そのありようについて考える3日間のフォーラム「対話は可能か？」を、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、特定非営利活動法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所による共催事業「東京迂回路研究」の一環として9月に実施することになりましたのでお知らせします。

※東京迂回路研究は、平成26年度より開始されたプロジェクトです。社会における人々の「多様性」と「境界」に関する諸問題に対し、調査・研究・対話を通じて、“生き抜くための技法”としての「迂回路」を探求しています。

<イベント概要>

主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、

特定非営利活動法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所

日程：2015年9月4日（金）・5日（土）・6日（日）

参加費：有料（プログラム毎に異なります。詳細は別添資料をご参照ください）

内容：※詳細については添付資料や、<http://www.diver-sion.org/Tokyo/> をご確認ください。

[9/4]（前夜祭）「**幻聴妄想かるた**」大会（会場：芝の家） 進行：益山弘太郎、新澤克憲、富樫悠紀子（ハーモニー）

[9/5]（プログラム1）**トークセッション「共に生きるということ」**（会場：SHIBAURA HOUSE）

登壇：加藤正裕（井戸端げんき）、長嶋元子（元子おばちゃん家）、荒木順子（akta）、高橋伸行（やさしい美術プロジェクト）、坂倉杏介（ご近所イノベーション学校）、吉川由美（ENVISI）

（プログラム2）**ライブ「Living Together ×東京迂回路研究」**（会場：SHIBAURA HOUSE）

朗読：GOMESS（ラッパー）、齋藤陽道（写真家）、佐藤郁夫（ぷれいす東京）／Live：GOMESS（ラッパー）

[9/6]（プログラム3）**出張ふわカフェ in 東京迂回路研究**（会場：芝の家）

進行：加藤悠二（国際基督教大学）、上田真央（元国際基督教大学）

（プログラム4）**シンポジウム「対話は可能か？」**（会場：慶應義塾大学）

登壇：齋藤陽道（写真家）、高嶺格（美術家）、上田假奈代（NPO法人ココルーム代表）、細川鉄平（通所介護事業所凡代表）、長津結一郎（NPO法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所）

<お問い合わせ> 特定非営利活動法人 多様性と境界に関する対話と表現の研究所

TEL：070-6437-3599 E-mail：info@diver-sion.org（担当：長津）

イベント内容および活動に関するお話は積極的にさせていただきますのでお気軽にご連絡をいただけますと幸いです。（ウェブサイト：<http://www.diver-sion.org/>）

■前夜祭 9月4日(金)

19:30～ 21:30 (開場: 19:15)	<p>「幻聴妄想かるた」大会</p> <p>不思議な声が聴こえる、奇妙なものが見える、なぜか強い確信がある…世田谷上町にある精神障害者就労支援B型事業所「ハーモニー」に通う人たちの体験をもとにつくった「幻聴妄想かるた」で遊ぶイベント。製作者の解説を交えながら、心の中の不思議な世界をかるた遊びを通じて共有し、分かち合うことを試みます。</p> <p>会場：芝の家 進行：益山弘太郎、新澤克憲、富樫悠紀子（ハーモニー） 定員：20名程度 参加費：500円</p>
-----------------------------------	--

■ 1日目 9月5日(土)

プログラム1

時間	内容
13:30 ～16:30 (13:15 開場)	<p>トークセッション 「共に生きるということ」</p> <p>さまざまな人の“生きること”に寄り添い、共にあろうとする、しなやかな場をつくっている実践者によるトークセッション。宅老所や託児所、アートプロジェクト、コミュニティセンターの運営などの実践から、「共に生きるということ」をテーマに、即興で語り合います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、加藤正裕（井戸端げんき）×長嶋元子（元子おばちゃん家） 2、荒木順子（akta）×高橋伸行（やさしい美術プロジェクト） 3、坂倉杏介（ご近所イノベーション学校）×吉川由美（ENVISI） 4、ディスカッション <p>会場：SHIBAURA HOUSE 1F リビング 定員：30名程度 参加費：1000円 *UD トークを使った音声認識字幕による情報支援あり</p>

プログラム2

17:30～ 20:00 (17:15 開場)	<p>ライブ「Living Together ×東京迂回路研究」</p> <p>HIVのリアリティを共有するプロジェクト「Living Together 計画」とのコラボレーションイベント。HIV陽性者やその周囲の人が書いた手紙の朗読とライブを行い「わたしたちは、もうすでに共に生きている」ということを体感します。</p> <p>* Living Together 計画 http://www.living-together.net</p> <p>会場：SHIBAURA HOUSE 5F バードルーム 朗読：GOMESS（ラッパー）、齋藤陽道（写真家）、佐藤郁夫（ぷれいす東京） Live：GOMESS（ラッパー） 進行：長津結一郎、マダム・ボンジュール・ジャンジ 定員：50名程度 参加費：1000円 *UD トークを使った音声認識字幕による情報支援あり</p>
----------------------------------	--

■ 2日目 9月6日 (日)

プログラム3

時間	内容
11:00 ～12:30 (開場 : 10:45)	<p>出張ふわカフェ in 東京迂回路研究</p> <p>国際基督教大学ジェンダー研究センター (CGS) が主催するジェンダーやセクシュアリティについて、みんなでふわっとおしゃべりする場「ふわカフェ」の出張版。今回のトークテーマは「カミングアウト」です。</p> <p>*国際基督教大学ジェンダー研究センター (CGS) http://web.icu.ac.jp/cgs/</p> <p>テーマ：カミングアウト</p> <p>会場：芝の家</p> <p>進行：加藤悠二 (CGS 職員)、上田真央 (元 CGS 非常勤助手)</p> <p>定員 15 名程度</p> <p>参加費 500 円</p>

プログラム4

14:00～ 17:45 (開場 : 13:45)	<p>シンポジウム「対話は可能か？」</p> <p>「対話は可能か？」という地平に自ら立つ方々をゲストに迎えた対話とディスカッション。多様な人が共に生きている社会では、その多様さゆえに、人はいくつもの境界線を引き暮らしています。見えない線による分断を目の前にして、わたしたちは、どのように振る舞い、迂回する道を見出しているのか。「対話は可能か？」という言葉を手がかりに考えます。</p> <p>会場：慶應義塾大学三田キャンパス東館 G-SEC LAB.</p> <p>定員：80 名程度</p> <p>参加費：1000 円</p>
14:00～	あいさつ、プログラム説明
14:10～ 15:00	<p>対談「まるっきり違うのにそれでも似るもの——迂回路をめぐって」</p> <p>登壇者：齋藤陽道 (写真家) × 長津結一郎 (NPO 法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所)</p> <p>* 筆談による対談を予定しています</p>
15:00	休憩
15:15 ～17:45	<p>パネルディスカッション「対話は可能か？」</p> <p>登壇者：高嶺格 (美術家)、上田假奈代 (NPO 法人ココルーム代表)、細川鉄平 (通所介護事業所 凡代表)、長津結一郎 (NPO 法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所)</p> <p>進行：井尻貴子 (NPO 法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所)</p> <p>* UD トークを使った音声認識字幕による情報支援あり</p>